夕刊
磐城新聞
十月二十四日發行
定價 一ヶ月金五十五錢
發行所 磐城新聞合資會社
(日曜日祭日翌日休刊)

市制實施の概要

下

平町長 青沼鋒太郎

中央政策は即ち自治體の國民自ら是を知り國運の發展を期することを要する、此意味に於て平を一日も早く大都市建設の急に迫られ乍ら地域狹少の欠陥あるで賢明なる平窪村民の理解を求め市制を促進せんとするものである。是が實現は即ち兩町村の一大幸福であると信ずる

四、現在の平町の財政と資源とには絕對に不安は無い故に何れの市町村に比較するも敢て遜色なきのみならず却て基礎の鞏固なるを誇り得ると信ずる、例へ昭和十一年度の起債を見込公會堂新築、第四小學校建築商業學校移轉敷地等を合算し元利金償却は昭和十一年同十二年兩年度は七二、五八九餘圓づゝ十三、十四の兩年度は五八、三〇〇圓、十五年度は四四、六三四圓餘、十五年度四四、六三四圓餘、十六年度以降二十年度にては二九、六六一圓餘更に以下貳萬圓又は壹萬圓若くは壹千圓臺に遞減する狀勢にて既往の舊債は償還期に近づきつゝあるを以て如斯遞減する所以である。而して其の償還財源は水道給水料一ケ年八萬圓乃至九萬圓收入あり前記最高の償還を見積るも尚は餘裕を生ずる、况んや三ケ年後は四萬圓内外の剩餘金を見るに至る洵に基礎堅實なりと謂ふも決して過言でない、安心して可なりである

五、特別戸數割を撤廢されれば市町村税負擔は自ら解消し財産税、所得税、資本利子税、營業收益税等に重課し、農村の如きは非常に惠まれ市民たると農村たるを問はず平等の地位に置かれる。併、從來の如き特別戸數割を存置すると假定しても五割乃至三割以上は平町より平窪の方が課率高き割合で之を以て見るも斷じて課税過加せることを立證出來る

六、產業道路の完璧に付ては都市計劃法の補助制あるも市財政の許す範圍でないと即時一界に完成することは困難であるが、三年後は多大の剩餘金を生じ相當道路改善費に流用出來る又平窪村が併合の曉は敎育費を除くの外從來村費に要したる人件費其他の經費が二重に要らなくなり、之等の費用を道路費に振り向けることも敢て不可能でないと考へられる、蓋し併合の目的は前述の如く種々の理由があるが、結局二を一に併せ強大なる力を活用し自治の進展を期する所以である

是を要するに何れの點より檢討し攻考するも市を實施すれば兩町村とも利益こそあれ不利と見るべきもの絕對に發見せざる處である俗諺に千軒共榮しと謂ふ語あり縣覺強大なる自治の建設は共榮共存を如實に物語るものである賢明なる平窪村民各位高所大所に立脚し市制實現のため共助せられんことを熱望し止まない

磐城歌壇

新妻久滿男選

『野に立ちて』　水島みゆき

○秋深き草原行けばうつろなる、心に響く虫の聲かも

○螢草亦のまんまになつかしき、幼き頃の思出の湧く

○草原の果てに上りし夕月の、少女(をとめ)の眉に似たりけるかも

小評　歌として形がよく整つてゐるし、調べも自然で大變よい。作者は遂この頃歌を作り初めたと告白してゐるが、仲々なれてゐる。第二首は感心せぬし、最後の『似たりけるかも』亦も眞似ない方がよからう。自重を望む。

弔下田歌子女史(其ノ一)　珠雲　小野務平

傲得風霜菊有叢
萬人悵望夜蒙雲
鬚眉男子避三舍
炳爍育英千古勳

スキー　林夏代

スキーつる〳〵
よくすべる
私ころがりや
お月様笑ふ
スキーつる〳〵
よくすべる
私ばつかり
コーロコロ

瞳　高萩吉次郎

ゆくりなく合ひし
四つのひとみ
などかこみ合へる
朝の電車の中で
ゆくりなく合ひし
四つの瞳

10月25日　△婦人の服飾乘車の制を定む(弘仁六)△島原の亂發端(寛永一四)△有爵者大禮服制定(明治一七)△露國滿露委員會設置(昭和一〇)

10月26日　△榎本武揚薨去(明治四一)△伊藤博文ハルビンに暗殺さる(同四二)△朝鮮會寧に飛行團設置(昭和一〇)

小説 微笑の眸

九　笹野純

『あいつはまだ子供だからな。……東京へ二年ばかりやつて置いたのがいけなかつた。いやにハイカラになつて歸つて來やがつた』

『僕は山澤の云つた樣なことはした覺えがないんだ、六ちやん安心しなよ』

敬一はさうつたが、心の中では、到頭六郎に知れたな、と思つた

すつと以前、六郎を訪ねたら留守だつたので、その行く先を聞いて其處へ行かうと思つてゐると、ナ、子が走つて來て、敎へてやると云ふので山道を二人で歩いたのが最初だつた。それから、ナ、子とは五六度會つてゐる。或る時は田圃を歩いた。又、或る時は祭の夜に街を歩いた。シネマを觀に行つたこともある

一週間ばかり前に、M公園で會つたきりで、それからは會はない。その『あひびき』を山澤に見られたんだ、と敬一は思つた

『敬ちやん――』

『何んだい』

『ナ、子だけは相手にしないで呉れよ、ね、賴むから……』

『けれどね、君はそんなこと云ふが、戀つてものは別ものだよ。もし、――萬が一だよ、もしね、ナ、ちやんが、僕を好きだと云つたら、どうする氣だい――君』

『ナ、子が君に戀した場合か。……』

『君は妹の純情を殺すつもりかい?』

さう敬一に言はれると、六郎はぷつつりと默つて了つて深く考へ込んでしまつた。――ナ、子と敬一が相愛の仲だつた時は、これは少なからず困る問題だつた自分が反對すればナ、子はどう思ふだらう。敬一にだつて友情が淺いことに成るのではないか。……

小説 高橋是清

(151)　松浦泉三郎作　佐々木今朝吉畫

募債の船出(五)

是清の要求は全部容れられた

是清はこの大任を諾け、日銀副總裁の資格で、急遽倫敦に出發する事になつた

政府は、日清戰爭の折、軍費總額約三分の一が海外に流出したのに鑑み、これを標準として、所要額を算定したがその軍費總額は約四億五千萬圓となつた。でその三分の一、一億五千萬圓を海外支拂ひに必要なものと假定すると、當時の日銀所有の正貨餘力が約五千二百萬圓程に先づこれで、海外支拂ひに當てるとして尚一億圓の不足を生ずる。この不足額は、どうしても外債に依る以外に途はない

依つて、年内に一億だけの外債募集は、絶對に必要だつたのである。この募債には、戰時だけに擔保の必要を豫想して、海關税の收入を以てこれに當てる事に御裁可を得てあつた。

出發を前に、曾禰藏相はこの事情を詳細に述べて、

『事情は以上の如くであるし、年内に一度で一億圓のこれを含んで、早急に出發募債が不可能の際は、二度でも差支へないから、一億圓だけは是非に……』

と念をおした

阪谷次官も側から

『この戰費は一年と續つてはゐるが、これは朝鮮から露軍を一掃するだけの目的で、萬一戰爭が鴨綠江の外に續くやうな場合には、更に戰費の追加が必要なので……』

と、付言した

是清は

『一命を賭しても……』

と、言葉の中には、千萬言を以てしても、尚盡せぬものがあつた

是清はその時、落馬して右腕に負傷してゐた。白布に包まれた腕は全く自由を與へられてゐなかつた。がその癒れるのを待つ餘裕はなかつた。服も、卅一年につくつたものが一着あるきりであつた。が、これすら新調してゐる暇すらなかつた

眞に慌しい鹿島立ちである

同行者は後の日銀總裁深井英五唯一人だつた。深井は當時同行秘書、英語英文の達者として、是清から選まれた者だつた

出帆は二月廿四日。横濱から便船で、先づ米國に向ひ、紐育で戰爭勃發後の情勢をさぐり、倫敦に向ふ豫定である

なれてゐる筈の海外渡航ではあるが、埠頭に立つた是清の心境は過古の時のそれとは、全くちがつてゐた

重大な責任感と、悲壯な感慨とに、故知らず、眼に、熱くにじむものを覺えた

乘船すると、間もなく、拔錨の汽笛が、朝霧の中に冴へるやうに鳴つた。そして、船は徐々に岸壁を離れた

(一命を賭しても!)

帽子を振る、少數の見送りの人々に對して、手を擧げて甲板に立つた是清の唇を衝いて出た言葉だつた。が、その言葉は、騷音の中に消されてゐた

岸壁は既に視界から去つた。同時に、初めて顔を見合つた、是清と深井とが、言ひ合したやうに

『祖國の爲に!』

『祖國の爲に!』

呟くやうに言ふと、何方からともなく、手を伸べ合つてゐた

×

紐育での逗留僅か數日。米人の日本に對する同情の表現は豫想外であつたが、未だ自國産業發達の爲に、は寧ろ外國資本を誘致せねばならぬ立場にあつた時とて、募債の事は到底望めぬ事が判明したので、三月初め、是清は英吉利に向つたのである

廣告

おでん
一平
電話二六三番
出前迅速

磐城名物
靈峰羊羹(れいほうやうかん)
小川郷驛前
平屋賣店

植田の新名所
鮫川川口に位置し四季の風光に富み眼下に太平洋を見晴し、白砂に綠の松林は實に天下の絶勝地の定評あり交通の最も便宜の位置にある鴨の湯鑛泉へ!
常磐線植田驛下車
…鴨の湯鑛泉旅館…
臨海館
植田町より十餘丁
(自動車ノ便アリ)
鮫川橋より當館迄は(モーター舟)の連絡貸ボートあります。

藥品
百貨
福島縣平町二丁目
西村屋藥舖
藥劑士 鈴木堅助
電話三番
振替 東京六二一九九
仙臺一二〇一

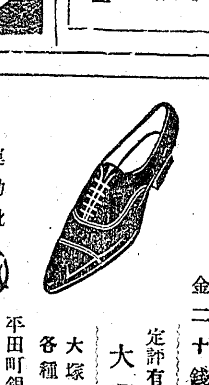
御贈答 ニッポンの魚は源魚
御小賣
日本水產特約
平製氷會社
電二二八・三二六番
鯛　マヒ　白魚　ワカサギ
銀鯛　甘鯛　甲イカ　鰹
北寄貝　帆立貝　目抜切身　うに貝柱
ヒノマル凍魚
代理店 四丁目 ト印魚問屋 電五二八番
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。

秋のサロン
食事、喫茶、酒場を兼ねた
男給の店
平・田町・電三五二

診療科目
一、齒科一般
保存科、補綴科、繼續架工科
齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科
一、口腔外科
一、レントゲン科
中野齒科醫院
院長 醫學士 日本齒科 中野惠次
醫學士 日本齒科 西川誠
平町田町(松月堂向ヒ) 電話五〇九番
(見習看護婦募集)

耳鼻咽喉科
高柳醫院
醫學博士 高柳博明
平驛前 (電三三六)
(入院應需 自炊ノ便アリ)

週間一點…サービス
新設致しました。
一週間中商品……一點を元價又は其れ以上お安く致し、店舖前へ明記して有ります故何卒御利用下さいませ。
今週のサービス
靴スミ、高級パリス印
普通二十五錢を
金二十錢にて
定評有る
大塚の靴
大塚の運動具
各種運動服裝



月星 運動靴 ゴム長靴
大塚
平田町銀座通り
電話七十七番

一般貨物運搬
迅速低廉に御取扱ひ致します。
福好工業合資會社
代表者 强口唯七郎
自動車部
電話二八二番
砂利、砂の御用命に對しては特に廉價にて御供給致します。

旅舘 大幸舘
電話下谷(83)六七七番
東京上野驛前
下谷郵便局横通角
私は平町出身ですから特に郷里の皆樣方の爲めに御便宜を圖ります
主人 比佐棟雄

本日開店
喫茶と音樂
グリル
バッカス

生花敎授
池ノ坊
生花を懇切丁寧に御敎授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町四丁目和泉屋旅館
須藤なつの

磐炭住吉坑(一部)の出水
瞬間に寶庫を潰滅す
死傷と從業員整理絶無
來月早々出炭量も平常復歸

二十二日午後十一時頃磐城炭礦住吉坑第二本線南一斜坑ツレ引立てより俄然出水、折柄附近に入坑者無かつた爲人命には何事も無かつたが急遽ダムを築き應急防水策を講じてゐるうち二十三日朝迄百五十立方であつた水量が午後九時頃より千立方に激增し、終に第二本線を抛棄するの已む無きに至つた、而して第三本線は係員の機敏な措置により完全に水沒の災厄より免れ出炭には全然支障無きも之が爲同坑の出炭能率は平常の日産千噸に對し約三分の一を減少する事になつたが、同坑中第三本線をはじめ綴、町田坑に多數の空切羽あり、且つ十二月一日よりは各坑とも從來の二交代を三交代に改むべく計劃中で之れに因る從業員の募集充員に腐心しつゝあつた矢先とて住吉坑在籍從業員五百七十名中今回の出水によつて同切羽を離れた從業員は綴坑へ百名町田坑へ五十六名、住吉第二坑(元高坂坑)へ百名と夫々配屬せしめ、今二十四日より三交代制を實施したので職員、從業員を通じ一人の剩員を出すが如き事が無い許りで無く之でも尚は從業員が足らぬので依然從業員の募集を續行する樣な事情で被害の少くないのは云ふ迄も無いが、多くの坑口を有する餘德として之の程度の災害は敢て致命的の影響も無く彼此全出は平常の靜謐を持して居り、出炭量も來月一日頃から常時に還元するものと觀られてゐる

壯烈な演習の後 堂々!市內行進
―晴の平入り愈よ迫る―

若松兵

演習參加の若松聯隊將兵六百餘名と軍馬四十二頭の一行は既報の如く來る廿九日午前十一時七分着磐越線で來平、聯隊旗は一時町役場構內に安置して一般の奉拜を許し、その大部分は紺屋町から四丁目マルトモホール前の間道筋で約一時間休憩の後一丁目附近から科學部隊を交へた市街戰を試みた上戰線を漸次南町裏田圃に移し新川(舊古川)畔で約五百名の學生軍と對峙壯烈な突貫に最後を飾つて演習を終了更に軍旗は第三小學校庭で擧行される分列式に臨み他はラッパの音も勇ましく市內行進を行つた上徒歩で四倉町に向ふ豫定であると

參加兵に慰問袋

演習生を迎へる平町では昨二十三日午後一時から各種團體代表者を招きこれが歡迎打合會を開いた結果驛のホーム並に廣場には各種團體代表者學生が本町通りに勢揃びし又參加六百餘名の將兵には大梨子とキャラメルを入れた慰問袋を贈る事となつた

雜豫防(協議) 秋季消防檢閱

汽罐更新檢査
郡下の日割決る

縣では汽罐及原動機更新檢査を左記日割で石坂技手により執行する
十一月二日赤井 三日澤

平署管內 組頭會議

平署管內消防組頭會は今二十四日午後一時から同署會議室に開き左記諸件を附議

(報告事項)消防組頭任免 消防組頭死亡
(指示)協會負擔金 消防手帳 永年勤續表彰徽章代納入
(注意)機械器具手入 組員統制 會計事務 稻盜

常磐送炭量奔躍
最需要季に恵まれた 今月中旬の激增統計

從來さらでだに增送の一途を辿り來つた常磐炭界は昨今の需要季に入つて一層の奔躍的現象を示し極めて明朗な黑ダイヤ景氣を漂はせてゐる、卽ち去る十一日以降二十日迄の統計によると
營業用―四、七一三車 五五、九六五噸 省用―一、五九二車 二〇、四五六噸 合計―六、三〇五車 七六、四二一噸
で前年同期に比し實に
(增差)營業用―五一六車 四、六二八噸 省用―三〇〇車 三、四六六噸 合計―八一六車 八、〇九四噸
に上り上中旬を合計すると千七百九十車一萬六千百二十七噸の增加で月末迄には恐らく二千七百車二萬五千噸程度の大黑字を現はすのではないかと觀測さる

新鋭古剛相競ふ 秋の豪華大試合
磐陽野球あす蓋あけ

地方球界の豪華版秋の磐陽野球大會は愈々明二十五日蓋明けされる、磐城審判協會が主催して第三回目通算して第十一回の大會だが協土倶樂部都合で參加せず殘る八組により熱戰は展開される、組合せ左の如く第二日は來月一日の日曜をトし准決勝以後が行はれる

A 磐炭―平倶 午前十時磐中球場
B 高月―平鐵 午後一時同上
C 入山―遞友 午前十時平商球場
D 古河―湯本 午後一時同上

渡 四、五日平町 五日
湯本 六日小名濱 豊間
七日植田 勿來

一毛作播種
二毛作增殖獎勵のため實地指導地に指定された飯野村北白土では來る三十日下小川では翌三十一日何れも大麥の播種を行ふべく一番耕起に着手した

。。。。防火デー延期。 來月五日の豫定であつた縣下防火デーは都合により十二月一日に延期された

縣下警官武道試合
平署軍惜しくも敗る

第二十二回縣下警察官武道試合は昨二十三日福島市武德殿で行はれた、心勝を期して出場した平署軍は劍道で二回戰、柔道で三回戰まで進み遂に敗れた、戰績左の如し

(劍道)二回戰
郡山 大關 植松 3―2 遠藤 渡邊 平
(柔道)三回戰
立川 安藤 2―0 渡邊 矢內 平

≡個人試合≡
△劍道准決勝
○南條(若松)―遠藤(平)
△柔道准決勝
○高橋(郡山)―渡部(平)
○山崎(福島)―矢內(平)

。。。。平驛精神講話會。 平驛では廿五日午前八時から驛樓上で大正大學教授佐山學順

少女達の眞心
◇在滿兵に慰問袋

平第二小學校五年の三組六十六名は『寒い滿洲で活躍する兵隊さんを慰めませう』と眞心こめた五つの慰問袋を作り今二十四日代表正木タツ子、木村イミ、菅本ヨシさんの三人が町役場に送付方を願ひ出た

小濱漁港擴張陳情
昨日幹部出縣

植田町小濱漁業組合は既報の如く植田漁業組合と改稱したのを契機として築港の擴張を行ふ事となり組合長渡邊國五郎外幹部五名は昨二十三日出縣陳情した

肥料配給改善協議

縣購聯主催の肥料配給改善協議會は二十四日午前十時から平町團體事務所に開き全購聯仙臺出張所から大衛熙夫、縣購聯から高橋義雄兩主事臨席、春肥の配給について協議した

砂防工事用材は ヤシャブシ
郡山間部が最適地
平營林署で乘り出す

平營林署管內山間方部が砂防工事の用材たる『ヤシャブシ』の好適地な事が最近の調査で判明した
ヤシャブシは從來縣內どこでも繁茂を見なかつたので縣土木課では遠く滋賀縣下から毎年十餘萬圓を大量購入して來たものだが同署管內のそれは滋賀縣で五年かゝるものが二年で成育し、それに同價格に評價されると云ふ好條件なので同署では明年度からこれが購入方を縣土木課へ陳情する一方山間部へ同木の繁殖獎勵に當る事となつたと

。。。。商業組合講習會。。。。 平果菜商業組合並に平米穀商業組合では二十六日より四日間福島市福島ビルで開かれる商業組合講習會に出席する

首魁に七年求刑
植田の博徒亂鬪事件に 櫻井檢事秋霜の論告

植田の博徒亂鬪事件の首魁同町本町料理業惠比須家事石川郡山梠村生れ賭博前科二犯高原新助(四〇)に係る傷害、傷害致死、賭博開張、常習賭博第五回公判は昨二十三日午後一時より平支部で中島裁判長係り香西、野木兩判事陪席、櫻井檢事關與、千葉、門傳兩辯護士列席開廷、裁判長との間に二三の問答あつて直ちに結審檢事は惡質の兇行を責めて懲役七年を求刑、辯護士は交々立つて正當防衛を强調した、言渡しは來る三十日午前九時

兩校バザー
藤田と磐女で開催

藤田校では今明二日間、磐女は愈々明廿五、廿六の兩日何れもバザー開催、盛り澤山の出陳と催し物に賑ひを豫想されてゐるが、磐女の第一日は午前九時開會午後三時まで、その間午前九時半からは日立製作所軍を迎への籠排球戰午後一時よりは附近小學女兒、同校生徒合同の音樂會あり、第二日は正午迄で閉會する、會場は控室が化粧品並に小物の手藝品、次いで五敎室が栽縫手藝品、次が參考品並に今年始めての佛蘭西人形陳列一室、圖書成績品展一室で作法栽縫室は食堂になる、出陳總點數は約七千點であると

舌の勇者大會出場
磐中辯論部五年生

吉田郡榮君は明二十五日福島高商に開かれる關東北々海道中學校雄辯大會に出席『芝生を踏んで』と題し熱辯を揮ふ、なほ既報磐城訓盲院松本七之助君の演題は『友よ齊しき步調を』と決定

天氣豫報

今晩は東の風晴
明日は東の風晴後曇
小名濱測候所觀測

その數三百五台
―平署管內の自動車數―

平署管內の自動車は去る二十日現在調査によると總數三百五臺で乘用車百六十臺貨物百四十五臺內譯左の如し

	普	小	特
貨物	一〇六	三六	三
乘用	一三五	二二	三

一週ところぐ
玲光生

大正十二年の震災に職工二名を殺したと云ふ因縁つきで有名な元品川白煉瓦の煙突(地上百二十餘尺)一二回の爆破では貧乏搖ぎもせず執拗にねばり續けてゐたが最後の爆破にトウ/\その巨体を大きく一とねじりして遂然倒壞した、科學は地上からあらゆる不用物を抹殺する

○

暗闇の生活から更生一番懇ろにあつた女とさゝやかながら愛の巣を營んだ酒井三郎(三八)。『日給七十五錢』の勞銀では病妻と老母をさゝへ切れずにまた/\惡の道へ―陰慘な人生の斷面だ

○

大ダニ、小ダニ四十六匹の大量檢擧を斷行した平署の昨今は之等の連中が武道場、宿直室、小使部屋、事務室迄ハンランしてる騷ぎお蔭で毎日二十、三十と辨當が飛ぶやうにはけるので差入屋さんは盆と正月が一しよに來たやうに奥齒の三枚目から悅に入つて居る

○

之もダニの一人、妻子四人を棄てゝ第二號と同棲中無盡掛金千二百餘圓の大穴をこしらへた元警部補の木傳次郎(四八)曾ては福島、郡山兩署の司法主任を勤めた身だ、今は被疑者として取調べを受ける運命の旋轉因はれの身に昨今の夜寒がヤケにしみやう

○

家賃の事から同じ年頃のちい樣に長煙管を揮つた六十婆、田三反步のごたすたから五十男をサン/\毆りつけた母娘軍―矢繼早に起る『女の武勇傳』に怖氣ついた男が『これでは男子救護法でも出來ないと』はまさかネ

○

頃日、新米が盛んに入り込むのに鎌田邊の勞働者街では『味がいゝので喰ひ込むんでなア……』としよげた顏、之等の階級に豐秋はわびしい―

□……□……□
◇―◇―◇

添ひ寢してゐた吾子が
何時の間にか冷くなる

平町南町三一職工宇佐義清治妻トシヨ(三九)さんは二十二日夜數日前から風邪をひいてゐた二男義明(一)君を添寢してゐたが翌朝三時半頃に至つて可愛い義明君が何時の間にか冷くなつてゐるのに吃驚、一時は母アちやんの乳房で窒死したのではないかとの噂さから平署でも檢視騷ぎまでした結果風邪で鼻孔がつまりそのまゝ死亡したものと判明、過失致死の疑ひが晴れた
。。。。親御さん、赤子に御注意。。。。

織田氏經營の 旅館宮田川
工都助川町に開業

平町南町織田齒科醫院長は性來の建築趣味から過般來工都茨城縣助川町の宮田川畔に數奇を凝らした總二階に明朗な浴場を附屬した旅館『宮田川』を新築昨二十三日夜同町出身茨城縣會副議長大內竹之助氏外土地の有志三十名を招待盛大な開業披露宴を催した

菊田方部稅務戸籍會議

菊多方部財務部稅務戸籍研究會は昨廿三日午前八時より錦村小學校に於て平稅務署關根庶務課長、吉田縣稅務中出張所長等を迎へ開催したが會員卅餘名出席閉會後一同昭和人絹工場を見學散會したが、尙は同方部戸籍主任會は今廿四日午前九時より渡邊村小學校に於て開催したが出席者は平區裁判所中島監督判事各町村戸籍主任等約卅名であつた

醫師産婆の居ない村

縣衞生課が去月末現在で調査したところによると無醫師村は縣下を通じ二一五ケ村で全國最高を占め全國平均七〇、五村に比較すると正に驚くべきものがあるが、尙この外無産婆が八一ケ村といふ數を示してゐる、郡下關係次の如し

(無醫師)鹿島 箕輪 永戸 下小川 平窪 玉川 渡邊 山田 荷路夫 貝泊 石住 草野
(無産婆)貝泊 荷路夫 石住 永戸 上小川

嬰兒扼殺起訴さる

双葉郡長塚村滋川字道カノ農淺田義雄內妻同郡大堀村生れ伊東ハルヨ(四〇)が義雄と一緒になる前他の男と關係懷姙、夫への氣兼ねから嬰兒を扼殺した事件は氏家檢事臨床訊問等行つたが此程起訴平支部の豫審に附され病氣恢復と同時に收容される筈

舊九月十一日 日曜 庚辰 先勝 破 虛宿 新十二月二十五日

諸判定應需 東京市本郷區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 人の蓄度が我が身に振りかゝる日口入無用▲二黑 大望を企て手に餘る事あり分限を堅く守れ▲三碧 過ぎたるは及ばず情もあだとなる事あるべし▲四綠 勞力次第にて手腕を揮ひ得る日親密亦肝要▲五黃 稼ぐに追付貧乏なし定業を勵めば利を增す▲六白 任重くして油斷のならぬ日努力次第にて吉▲七赤 近きを繫へ遠きに及ぼすべき日自ら進展す▲八白 人を容るの量無ければ邪魔の入り込む日▲九紫 守勢より攻勢に轉ずべき日追々と目的成る

舊九月十二日 月曜 辛巳 友引 危 危宿 新十二月二十六日

▲一白 分に叶ひたる事には大吉の日開店起業良好▲二黑 運氣强大にして諸願成就すべし雇用就職吉▲三碧 多くの雜事入り込み來りて內に助け少き日▲四綠 行詰り勝の日別に通路を求むべし飲食注意▲五黃 自ら責る事强ければ衆望集りて榮達を見る▲六白 ほうはいの助けありて存外の光榮に浴する吉日▲七赤 幸福の人より不運の人を見て自省すべし▲八白 但せし陽氣が次第に增進して吉福を招入る▲九紫 心焦立ち衝突を生じ易き日新事は殊に不利

二十五日(小名濱測候所發表)
日出 五、五二 月出後 一、二七
日沒 四、五〇 月沒
滿潮 前一一、四五 後一〇、五五
干潮 前四、二〇 後五、三五

二十六日
日出 五、五三 月出後 二、〇〇
日沒 四、四九 月沒前 〇、五四
滿潮 後〇、三五
干潮 前六、〇〇 後七、〇〇

お醬油は……ヤマフル
味噌 醬油 たひら正宗 鰹節 食料品
鹽屋 山崎合名會社 福島縣平町 電話(營業部一〇番 本店二七番)

明治生命磐城代理店 山崎與三郎

産科 婦人科 花柳病科
午前宅診 午後往診 入院應需
井坂醫院 平町田町(元合津醫院跡) 電話五五九番

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
和洋銅物 金物問屋 (久) 釜屋商店
磐城國平町五丁目 電話九番 九九番 振替貯金口座 東京一〇九五六番

確實敏捷は(久)の生命なり